

# 今治海事都市発展ビジョン（案）

## 概要資料

# 今回策定する「今治海事都市発展ビジョン」は、2005年に策定された「今治海事都市構想」に続くビジョンとなります

## ビジョン策定背景

### 旧ビジョン「今治海事都市構想」

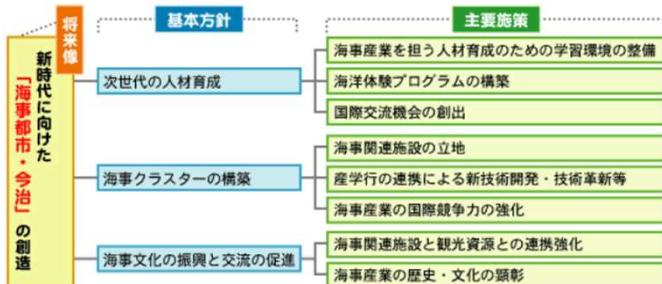
#### <策定の背景>

- 2005年（平成17年）年1月の市町村合併により、海運、造船、舶用工業などの海事産業と、それを支える金融、教育、検査機関などが集積した「海事都市・今治」が誕生

#### <概要>

- 海事産業の歴史文化や地域貢献への認知度向上も目指し、新時代に向けた海事都市今治の創造のため、3つの基本方針（①次世代の人材育成、②海事クラスターの構築、③海事文化の振興と交流の促進）を軸とした『今治海事都市構想』を策定

#### 【将来像・基本方針・主要施策】



改定の必要性  
→

- 策定から約20年経過
- 海事産業や今治市を取り巻く環境も大きく変化

### 新ビジョン「今治海事都市発展ビジョン」

#### <策定の方向性>

- 当市の主幹産業である海事産業の更なる発展と、世界に冠たる「海事都市今治」のまちづくりを目指し、この先20年を見据えた海事都市のあり方をとりまとめた『今治海事都市発展ビジョン（仮称）』を策定する
- 策定に当たっては、外部環境・内部環境について、過去20年の変化を踏まえる

#### <ビジョンの構成要素>

- ビジョンの構成要素は以下の5項目を想定
  1. 海事産業を取り巻く現状（外部環境）
  2. 今治地域の特徴・活用する強み（内部環境）
  3. 目指す将来像・基本方針
  4. 実現に向けた取組（主要取組施策）
  5. ロードマップ・推進体制

今治の歴史には「進取の気風」「温故知新」のDNAが存在。他地域では衰退した産業を新たに温めることで現在の代表的産業（海事/塩/タオル）を確立してきました

## 今治発展の歴史とDNA

1160

村上海賊の先祖が越智大島に居を構える

1683

波止浜湾で塩田開発が始まる

1800年代

波止浜湾の船大工は船の建造・修繕を活発化

1870

今治・大阪間で貿易船運航が始まる

1879

四国初のキリスト教会設立

1894

蒼社川の水質を活かし、今治タオルの製造が始まる

1902

波止浜湾で近代造船工業が成立

1922

四国初の国際港として、今治港が開港

今治のDNA  
進取の気風・温故知新  
豊かな自然環境、瀬戸内海の交通要衝、村上海賊の末裔として「進取の気風」「温故知新」のDNAが息づく

1950年代

【海事】

造船会社による鋼船コストダウン、金融機関の協力による年賦払いでの鋼船購入が容易になり船主が急増

1970年代

【塩】

化学塩の台頭で伯方島の自然塩が廃止。存続運動が起り塩田製法を用いた塩の認可を取得

2006年～

【タオル】

今治タオルプロジェクト開始。価格競争で市場シェアが低下する中、品質&ブランド向上、海外展開等により復活

1999

しまなみ海道部分開通

2005

市町村合併で「海事都市今治」誕生

2009

第1回バリシップ

2022

今治港開港100年

2024

海事都市今治未来基金を設置

今治発展の歴史も踏まえ、産業・個人・社会の観点から、旧ビジョン策定当時の状況を起点として、今後20年間に想定される変化も織り込み、未来のありたい姿を導出しました

## 今治市の過去・現在・未来の姿

今治市のポジション

(  
20  
年  
前  
)

### 産業（しごと）

### 個人（ひと）

### 社会（まち）

#### 国内1海事都市（市町村合併で「海事都市・今治」が誕生）

- 既存船建造・保有・運航の国内主要拠点
- 市町村合併に伴い、海事バリューチェーンが網羅された
- 船主・海運・造船・舶用を中心とした安定産業

- 海事産業の魅力が不十分/伝わらず、働き手が来にくい
- 技能者育成の組織や仕組みが誕生
- 海外人財は少数

- 市民における海の魅力認知は希薄
- 市町村合併に伴い、海事都市今治が誕生

↓  
強  
み  
・  
現  
在  
弱  
み  
)

#### 国内トップ海事都市（国内建造船2割を市内造船所が建造。国際的認知度も獲得）

- 既存船建造・保有・運航の国内トップ拠点
- 海事バリューチェーンが確立されている点が強みであり、協調の機運も高まり
- 船主・海運・造船・舶用を中心とした安定産業

- 海事産業の魅力が不十分/伝わらず、働き手が来にくい
- 男性/若手対象の技能者育成が中心
- 海外人財を海事産業における一時的な労働力として活用

- 市民における海の魅力認知、海事都市としての誇りは希薄
- 国内トップクラスの海事都市として認知

↓  
あり  
た  
い  
姿  
)

#### しごと・ひと・まちが躍動する国際海事都市“IMABARI”

- ##### 国際的で多様性に富む海事産業
- 建造・所有・運航が相互連携・深化したグローバル海事拠点
  - 次世代技術対応のためのバリューチェーン上の協調領域を拡大
  - 新プレイヤーが参加し、活力に溢れ、稼げる産業への転換

- ##### 多彩な人財が集い・育ち・働く
- 海事産業の魅力が向上/伝わり、働き手が増加
  - 次世代船に対応できる高度技術者・技能者の育成&獲得
  - 海外人財を、コミュニティの一員として受け入れ

- ##### 多文化が共生する魅力ある地域
- 海/海事都市の魅力向上で、市民が誇りを感じ、まち全体で魅力発信
  - 国際海事都市としてのプレゼンスを発揮

# 将来像として「しごと・ひと・まちが躍動する国際海事都市“IMABARI”」を掲げ、実現のため にしごと・ひと・まちという3つの基本方針とし、8つの取組の方向性を示します

## ビジョン案の全体像

### 取組の方向性

- 主な施策案

